

しおさい通信

No. 1 1 2

令和4年2月号

指定就労継続支援B型事業所しおさい

三崎：銚子市三崎町 3-82 TEL：0479-23-9012

春日：銚子市春日町 2058-1 TEL：0479-25-3475

HP：<http://npo-new.org/>

寒 中 除 草

1月7日（金）と21日（金）、野外作業班が不動産会社から依頼された銚子市豊里台（豊里ニュータウン）にある管理地の除草作業を行いました。寒風の中の作業でしたが、2か所ともすっかりきれいになりました。近所の方々もスッキリした空き地を見て喜んでくれていることでしょう。

■豊里台① ～この空き地の除草作業は2回目です～



+++++

■豊里台② ～朝は晴れていたのに、作業終盤、雲が垂れこめて雪が降って来ました！！～



『仕事に就いた先輩のお話を聞こう』②

●千葉優希<ちばゆうき>さんのお話

私は元々神奈川県民で、介護の仕事をしていましたが、21歳の頃、会社の経営方針が変わって、そのことが自分に合わなくなりうつ病を発症した。その後、しばらく休職したが回復せずに退職し、1か月半ほど精神科の病院に入院した。病状が少し改善して、惣菜店でアルバイトをしたが、その際に銚子の人と出会い銚子に移り住み、23歳の時に結婚した。その後出産し、子どもが1歳になった時に保育園へ入れることが出来、現在は、市内の食品会社で働いている。

求職活動だが、その食品会社はハローワークで見つけた。子どもがいるのでシフト無しの仕事を探して、今の会社が条件に合っていたため面接を受け、その日のうちに内定を頂いた。仕事は週3～5日だが、忙しくなければ基本的に土曜・日曜・月曜が休みなので子どものためにも大変助かっている。子どもの体調不良や私の通院など急な休みも取りやすい会社だ。

子どもが発達障害だとわかった頃に、私も検査で発達障害だとわかったので、職場の人にどういう特性があるか説明をして、完全ではないもののある程度は理解して頂いた。

33歳の時に関節リウマチも発症した。特に手に痛みがあるので、痛みが強い時は職場の人に手伝ってもらっている。また、夏はとても暑い職場だが、周囲の人に恵まれて働けている。

私は統合失調症と発達障害、関節リウマチという障害と病気があり、子どもも発達障害がある。しかも離婚したので現在は一人で子育てをしている。しかし、受けられる公的支援の手続きをすべて行って支援を受けており、給料と公的支援を合わせることによって、今は困らない程度に生活が出来ている。本当はもう少し稼いで、子どもに習い事をさせたり、楽しいことを増やしてあげたいと思っているが、今無理をして体を壊してしまっただろうとも無くなってしまうので、現状を維持するように心がけている。

ストレスを少し感じるなどと思ったら、かんらんに行って、趣味の手芸をしたり、休日にとことん寝たり、イオンに行って買い物やゲームコーナーで楽しんだり、映画を観たりしてリセットしている。

焦って、自分の限界を超えて頑張り、心や体を壊れてしまい後先なくなってしまっただけは、元も子もないので程良くやるのが大事なかなと思っている。

・質問

仕事を続けて行く上で、今後の希望や夢、願望はあるか？

・質問に対する千葉さんの回答

とりあえず子どもが成人するまでちゃんと生かすことだ。子どもが発達障害を持っていると、道路への飛び出しとか、やんちゃだったりするので、死んでしまうのではないかとヒヤヒヤすることはあるが、とりあえず成人するまで、仕事に就けるまで育てるのが夢だ。もう一つは、今の生活をなるべく崩さないように頑張りたいと思っている。

・質問

今の職場は、かんらんから紹介されたのか？

・質問に対する千葉さんの回答

かんらんからの紹介ではなくて、自分でハローワークに行き探した。最初は障害を公表しないで面接に行ったが、人数も少なくアットホームな会社だったので、自分が努力して馴染むようにした。

・質問

面接で心がけたことはあるか？

・質問に対する千葉さんの回答

面接という面接ではなかったような感じだったが、社長の奥様が応対してくれた。シャツとスラックスという服装で行ったら驚かされたが、第一印象は大事だと思う。

・質問

具体的にどんな公的支援を受けているのか？

・質問に対する千葉さんの回答

母子家庭の児童扶養手当、私と子どもは低所得なので、病院代が掛からない受給券、子どもはデイサービスに通わせてもらっているが、これも低所得なので利用料が掛からないようになっている。

～編集後記～

今号では、昨年12月に行われたピアサポートの学習会で発表して下さった千葉優希さんのお話の要約を掲載させて頂きました。掲載を承諾して下さい、ありがとうございました。お話を聞いた率直な感想は、やはり「母は強し」ということです。障害や病気を抱えて自分のことだけでも大変な時があると思うのですが、おなかを痛めて生んだ子どもの為なら頑張れるということも良いお話でした。でも、千葉さんご自身もお話の中で語られていたのでおわかりだと思いますが、辛い時や大変な時は、周囲の人の力を借りて乗り越えて行くことも、心や体を守るためには大事なことかなと思います。



▲千葉優希さん

